

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イオンタウン京都山科 新築工事	階数	地上3F
建設地	京都市山科区柳辻草海道町15外19筆	構造	S造
用途地域	商業地域、第二種住居地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,360 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、集会所、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年5月 竣工	評価の実施日	2019年4月8日
敷地面積	13,867.65 m ²	作成者	佐藤 毅
建築面積	3,815.76 m ²	確認日	2019年4月8日
延床面積	9,992.79 m ²	確認者	佐藤 毅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★★★★★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 76%</p> <p>③上記+②以外の: 76%</p> <p>④上記+: 76%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.1</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.2</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.8</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>建物全体の設備関係が環境負荷を軽減するように配慮された機器を使用している。周囲の景観や風向を考慮した設計となっている。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用し、化学汚染物質による空気汚染を回避する対策がとられている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>階高や天井高が高くなっているため、快適な空間を作っている。外壁・内壁共に仕上げには防汚性の高いものを使用しているため、維持管理に配慮されている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>緑地を適度に設け、周囲の景観に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物全体の一次エネルギー消費量がBEI=0.73のため、環境負荷軽減を考慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>お手洗いは省水型機能の付いた設備を配置している。躯体と仕上げの分別が可能となっているため、再利用の向上に取り組んでいる。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>風向に配慮した建物の設計となっている。多くの車を駐車できるスペースを設けており、周囲の渋滞対策を行っている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される